



ようこそ京都舞鶴港へ [Vol.4] 「変わる!!環日本海国際物流」開催

シンポジウム

「変わる!!環日本海国際物流」開催

舞鶴港振興会は、京都舞鶴港の利用促進を図るとともに、京都舞鶴港を核とした産業振興、地域振興を実現するために活動しています。



パネルディスカッション

な貿易拡大を見据え、今後の地域振興方策を検討していくものです。なお、このシンポジウムは、近畿国際物流戦略チームと北陸地域国際物流戦略チームの主催で、国土交通省と京都府、舞鶴市等が後援し、舞鶴港振興会の伊藤雅一・常務理事が司会を務めました。当日は、齋藤彰・舞鶴市長と河瀬一治・敦賀市長をはじめ、官民合わせて約340名の方が来場されました。

シンポジウムの冒頭、加納時男・国土交通省副大臣が、北東アジアとの交流が盛んになり、日本海諸港のコンテナ取り扱い数量が増加していることや港湾を核とした地域づくりを進めていくことを述べられ、谷垣禎一・衆議院議員が、京都舞鶴港で進められている新埠頭の建設や積極的な集荷活動、企業誘致活動に言及した挨拶を述べられました。

行政報告では、宿利正史・国土交通省国土交通審議官から、新興国の経済成長を踏まえて、国際拠点港湾・空港の機能向上や国際国内一体の物流ネットワーク構築などの施策を展開していくことが報告されました。

また、基調講演では、(財)環日本海経済研究所特別研究員の三橋郁雄氏が、「最近の北東アジアと日本海横断国際フェリー」をテーマに講演され、今後の取組みとして、図們江地域に注目していくことを話されました。

続いておこなわれたパネルディスカッションでは、京都

新聞社論説委員の三谷茂氏のコーディネートのもと、パネラーの皆様がつぎの意見を述べられ、他港との連携が提唱されました。

上村多恵子（(社)関西経済同友会幹事）

- 港に注目し、関心を集めることが第1歩
- 観光的な要素も取り入れた港湾整備を

黒田勝彦（近畿国際物流戦略チーム幹事会座長・神戸市立工業高等専門学校校長）

- 中国東北部と内陸部の貨物が取り込めれば、近畿の発展につながる
- 資源輸入港にするといった港湾の特化も

須野原豊（国土交通省港湾局長）

- 観光面から、フェリーで京都舞鶴港に入り、京都市内へ行くしかけをつくる

友永隆浩（三井物産戦略研究所企画推進部長）

- 生活関連企業を日本海側へ引き込むことが課題
- 京都舞鶴港と敦賀港の機能分業と一体運営も

柳井雅也（北陸地域国際物流戦略チーム座長・東北学院大学教授）

- 物流コストの低減は、地元の港を利用すること
- 北東アジア物流における日本海側諸港の地理的優位性の発揮とPRを

山田啓二（京都府知事）

- 環日本海国際物流が「変わる」のではなく、これを「変える」

- 京都舞鶴港と敦賀港は連携が可能

河瀬一治（敦賀市長）

- 敦賀港と京都舞鶴港の連携と役割分担
- 港の発展が地元の発展につながる

齋藤彰（舞鶴市長）

- 京都舞鶴港は歴史的にも国との結びつきが強い。国土計画上の位置づけが必要
- 時代を先取りした港湾管理が必要

（順不同・敬称略）

市から「中小企業団地」の回答～喜多工業団地内に～

昨年12月に舞鶴市へ提出した商工施策に対する20年度要望の一つである“市内中小企業向けの工業団地の創設”についてこのほど回答を得ました。

場所は、喜多工業団地内の13,780㎡(約136m×約102m)で、既に同団地内には京都交通㈱が進出しているほか、来年8月には精密プラスチック製品の製造・組立をおこなう㈱ベルテックスが稼働予定となっております。

これまで、市内の中小製造業者が事業を拡大する場合や環境対策などで移転が必要になった場合に、移転可能な場所が見つ



からず仕方なく市外への転出や狭い敷地での操業を余儀なくされるなど、当市の地域経済にとっては大きなマイナス要因となっております。

このため、市内の住宅地域に点在している中小企業をまとめることにより、環境への配慮や工業集積を形成することによる強みや利点が得られるように、機械金属部会においては平成18年度から舞鶴市との懇談を重ね、この課題について活発な意見交換をおこなうほか、部会員へのアンケート調査や、京阪神への視察など、月1回程度の役員会を開催し具体的検討を進めてまいりました。

既にこの団地には市内企業2社が進出の予定をされております。

当所としては引き続き行政と連携して当所会員企業を中心とした関連企業に対して働き掛けをおこない、市内のものづくりの集積と効率化を図るために意欲を持ったがんばる企業を応援してまいります。